

SHIRAKOBATO

# しらこぼと



1989. **1**

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 56

日本野鳥の会 埼玉県支部

# 不忍池(台東区上野)

— 鳥のこらない鳥と人の対話を —

## (1)はじめに

カモの名所・不忍池の裏側に大学があるという理由で、私に書けということらしい。確かになじみのある場所ではあるが、定期的な観察や調査をしているわけではない。したがって、ごく一般的なことしか書けないが、それで許していただくとしよう。

最初に注意を一つ。ここは大都会の真ん中にある公園の一部である。したがって、ここを訪れるときには都会の公園らしい振る舞いをしたい。山の中に鳥見に行くのと同じ格好で行くと、上野周辺のそこそこに散見される浮浪者と同じ目で見られることになる。観察態度にしても、あまりきょろきょろ目を光らせていると、あらぬ疑いを受けることになる。ぶらりと公園にやってきたという感じで、肩の力を抜いて鳥見をしたい。それでも鳥は充分過ぎるほど見られるのだから。

## (2)動物園から動物園内の池へ(冬)

不忍池は蓮池とボート池、それに上野動物園内にある池の三つに分かれている。一般的なコースとしては、上野駅をおりたらず動物園に入園し、ここで世界の色々な動物を見て歓声をあげ(これが重要。この原稿が活字になる頃には、今年生まれのパンダの子ども一般公開されていることだろうから、動物園の楽しみも倍増するはずである)、それから動物園内の池に向かうことになる。

動物園は駅側の東園と池のある西園にわかれており、順路に沿って東園を見ていくと、やがて西園につながる(東園が台地上にある

ので、西園におりるという感じになる) イソップ橋にさしかかる。橋の途中から、眼下に不忍池が広がり、なかなかの眺めである。

西園において鳥見を始める。動物園の池で冬に多く見られるカモは、ホシハジロ・キンクロハジロ・オナガガモといったあたりで、合わせて数千羽。水面をびっしり埋め、岸で入園者が記念撮影などしている真下までひしめき合っている。彼らに給餌するための棧橋があり、給餌の時刻ともなると、すさまじい爆音とともに無数のカモたちが押し寄せてきて、この世のものとも思えぬ惨状となる。

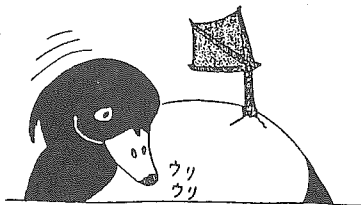
これらのカモの他に、池の中の島でカワウがコロニーを形成しており、常時数百羽ぐらいは見られる。でかい図体に真っ黒なからだ、そして冬だというのにしらがまじりの繁殖羽の彼ら(ここの繁殖期はちょっと違うらしい)が、岸の間近までうようよしているさまは、あまり気味のいいものではない。大都会に大型鳥類のコロニーがあるのは、世界中でも珍しいことなのだそうだが。

さて、この池には珍鳥のクビワキンクロが毎年やってくる(毎年のことなので、見飽きたという人も多いが)。例年給餌用の棧橋付近で見られていたのだが、原稿提出直前に聞いた話では、今冬は水族館付近に定着しているらしい。十分に注意しないと、特徴あるゴリラ頭(頭が二段構えになっているのだ)を見逃すことになるかもしれない。

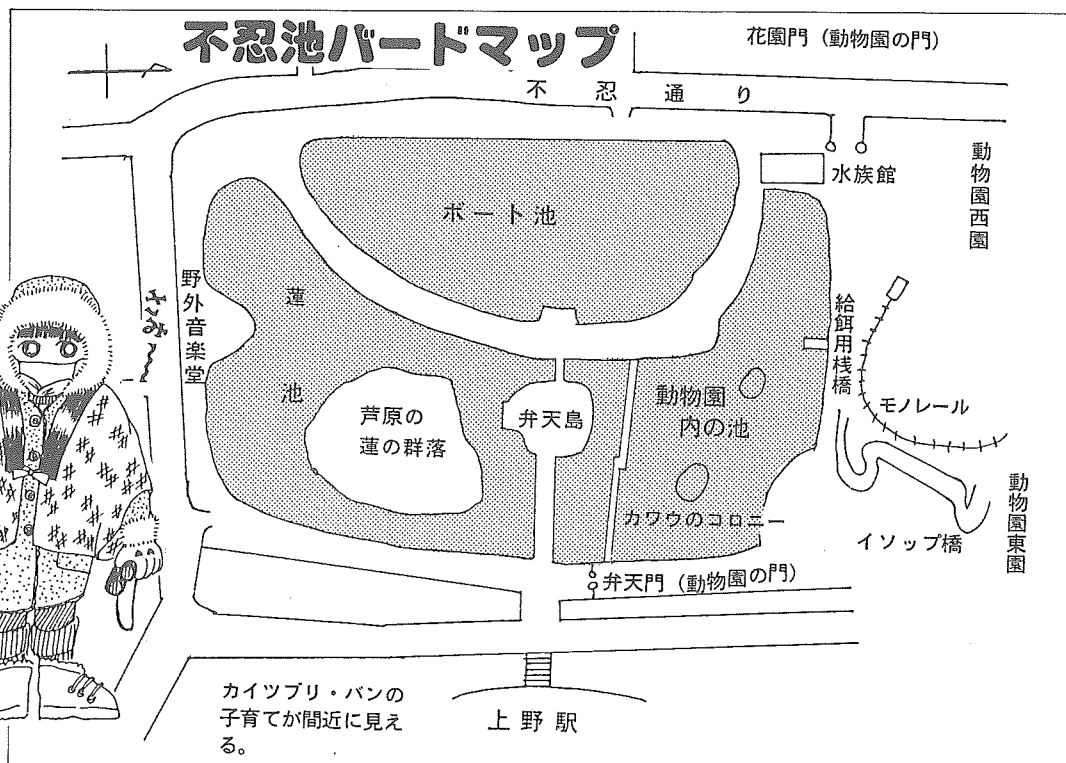
## (3)蓮池・ボート池(冬)

動物園内の池を十分に楽しんだら、西園の南東のはずれに蓮池方面への出口(弁天門)があるので、そこを出て今度は蓮池を見る。

蓮池には、北側を中心におそらく千羽以上のカモがいる。ここではオナガガモが圧倒的に多い。他に少数だがヒドリガモ・マガモ・ハシビロガモもいる。隣のボート池でもそうだが、岸にあがっているカモ(大半はオナガガモ)がやたら多く、人間の通行に不自由す



(カット 榎本秀和)



るような所も少なくない。ポップコーンやパンなど与える人がいると、そのまわりにはカモだかり（カモの雑踏）ができる。そのありさまはまさに公園のドバトそのもので、口の悪い連中はドガモなどと呼んでいる。

むしろ、大きなカモに虐げられながらひっそり生きているバンやカイツブリたちが可憐でいい。私などは思わず判官びいきになり、「こら、小さな顔をしてないで、カモなんぞ蹴散らせ」といいたくなる。

蓮池からポート池に移る。ここで多いのはオナガガモ・ホシハジロ・キンクロハジロ。特に目立つのは、ベンチの脇で昼寝をしているオナガガモの多さである。また、ポートから餌をやる人がいると、戦闘機の大編隊と駆逐艦の大艦隊が空母に総攻撃をかけるような光景が展開される。

#### (4) 蓮池の初夏

とまあ、悪口めいたことばかり書いてきたが、それもそれだけここが私にとって慣れ親しんだ場所だからであり、彼らに対する愛着だって、私は人並み以上に持っている。しかし、この池で最も好きなのは、初夏に蓮池で

繁殖するカイツブリやバンたちである。肉眼でたっぷり楽しめる距離で展開される彼らの子育て風景には、思わずほろりとなるほどに心が和む。冬の不忍池ばかり有名だが、初夏のこの風景にもぜひ触れて欲しい。

しかしこの時期にも、カルガモのやんちゃ坊主たちが、カイツブリやバンを虐げる（カルガモも繁殖していて、彼らの子供は6月頃にはバンの親鳥より大きくなる）のである。

#### (5) おわりに

不忍池では、鳥と人間との距離が小さい。水鳥に限らず、スズメなどの小鳥もあまり人から逃げようとしなない。それだけこの人間が信頼されているのであろう。こういう所では、望遠鏡などはあまり使わず、肉眼でのんびり鳥のいる風景を楽しみたい。そして、ときには鳥たちに語りかけてもみたい。初めは彼らもびっくりするだろうが、彼らの信頼を裏切ることをしない限り、彼らとの親密さを増せるかもしれない。望遠鏡を通して遠巻きに見ているだけが鳥を愛することだとしたら、あまりにもお寒いことだと思うのである。

(鈴木高士)

# 埼玉県における主な稀少種リスト

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

## (1)はじめに

研究部では本誌No.32(1987年1月号)で1978年以後の埼玉県産鳥類リストを、No.44(1988年1月号)で埼玉県産鳥類普通種地域別季節別生息状況リストを発表した。本県における主な稀少種をまとめたので報告する。

## (2)埼玉県における主な稀少種リスト

本リスト(右ページ下)では便宜的に、A:全国的に珍しい種、B:伊豆、小笠原諸島を除く関東地方で珍しい種、C:埼玉県では珍しい種の3区分とした。Aでは全国的に観察例や数の少ないコモンシギやサバクヒタキ、限定された地域に生息しているアカオネッタイチョウなどが含まれるが、日本で数回繁殖例のあるアカガシラサギ、対馬で渡りの時期に飛来しているヤマショウビンも入れてある。Bでは渡来している地域は限られるが数の少ないマガン、マナヅルや、海洋では数の多いコアホウドリなどが含まれる。ヒシクイは霞ヶ浦に毎年少数が越冬しているため除いた。Cは、海岸や干潟で比較的好く見られるクロガモ、ミツユビカモメ、ホウロクシギなどが含まれる。

上記の区分は、1988年12月までの記録で、以前には国内の繁殖がほとんど知られていなかったツバメチドリのように、生息状況の変化、種の分布域の移動、観察者の増加などにより、今後も変化してゆくと思われる。

本リストでは、主な記録はなるべく記載したが、観察報告のみで正式記録としないケースは除いた。(採用基準は本誌No.32参照)

稀少種の飛来は予測できないが、本リストから考察すると、観察地は比較的自然の残されている地域や荒川、利根川などの大きな河川流域が多く、季節的には9月から11月の秋の渡りの時期が多い。海洋性の種は台風や低気圧の通過後、主な河川沿いで見られる事が多い。稀少種の観察は、これらの特色を念頭に入れておくと役立つ。鳥の観察において重要なのは、自らのフィールドで観察を継続す

る事で、稀少種の発見もフィールドから生まれる。

## (3)埼玉県産鳥類リストの追加

本リストには1987年1月以後に追加された種も載せた。264のソリハシシギを除き、埼玉県産鳥類リスト追加の10種のうち9種が稀少種で、今後もこの傾向は続くと思われる。

(番号はリストの追加番号を示す)

260 クロコシジロウミツバメ

261 コウノトリ

262 クロツラヘラサギ

263 アカハシハジロ

264 ソリハシシギ

265 オオハシシギ

266 クロトウゾクカモメ

267 シロハラトウゾクカモメ

268 キガシラセキレイ

269 クロジョウビタキ

(執筆) 石井智、榎本秀和、小荷田行男、  
藤原寛治、森本國夫

## < 文 献 >

埼玉県教育委員会 1987 埼玉県動物誌  
埼玉県 浦和

入間野鳥の会 1983 入間地方の野鳥—  
所沢・入間・狭山三市の野鳥生息調査報告書

日本野鳥の会埼玉県支部入間野鳥の会 入間  
松田喬 1984 秋ヶ瀬の野鳥 浦和北高

研究紀要 No.4 78~91 浦和北高 浦和

(財)埼玉県野鳥の会 1985 埼玉四季  
の鳥 埼玉新聞社 浦和

埼玉県環境部自然保護課 1986 埼玉の  
鳥とけものたち 埼玉県 浦和

日本野鳥の会埼玉県支部 1978~1984  
野鳥さいたま No.1~66大宮

日本野鳥の会埼玉県支部 1984~1988  
しらこぼと No.1~54 浦和

(財)埼玉県野鳥の会 野鳥さいたま  
1984~1988 No.67~102 大宮

(財)埼玉県野鳥の会 ナチュラルアイ  
1988 No.1~19 大宮



柳瀬川の探鳥会

菅原のぶ子 (三芳町)

11月13日、入会後はじめて柳瀬川の探鳥会に参加しました。みなさん御親切で、いろいろ教えて戴き感激しました。近くに住みながら、そして毎日のように柳瀬川を渡りながら、こんなにすばらしい野鳥たちの楽園があるとは知りませんでした。

初めまして

井上幹男 (深谷市)

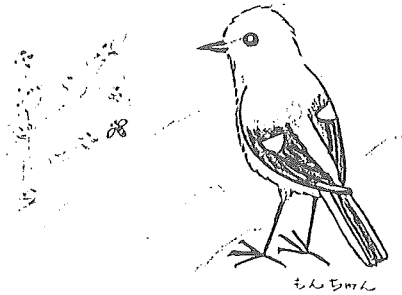
11月から入会して、毎月来る『しらこぼと』楽しみにしています。特に野鳥情報は、バードウォッチングの参考にしています。私は、入会前から阪東大橋下流から上武大橋下流までをエリアにして、バードウォッチングを行っています。

わか家の「もんぢめん」を紹介します。  
(シヨウビタキ X ス)

いつもベランダで水あびをしています。

おとまりには オスかいますか、

ウチの子の方が かじごうに見えます。



小林由紀子 (栗橋町)

表 埼玉県における主な稀少種のリスト

(注) ・番号は埼玉県産鳥類リストの番号

- ・区分 A……全国的に珍しい種
- B……関東地方では珍しい種 (伊豆・小笠原諸島は除く)
- C……埼玉県では珍しい種

番号	種名	区分	主な記録
6	コアホウドリ	B	1986・6 熊谷
7	ジロハラミズナギドリ	B	1982・8 越生
10	コシジロウミツバメ	B	1979・10 与野
11	アカオネツタイチョウ	A	1985・7 志木
13	サンカノゴイ	B	? 北川辺
19	アカガシラサギ	A	1982・5 浦和、北本 1986・11 本庄 1988・5 浦和、本庄
25	マガン	B	1983・11 川越 1986・11~87・4 本庄
26	ヒシクイ	C	1979・2 本庄 1986・9 北川辺
29	アカツクシガモ	B	1984・11 北川辺
43	オオホシハジロ	A	1979・9 大宮
44	アカハジロ	A	1981・11 ~ 82・1 浦和
47	クロガモ	C	1982・4 蓮田
48	シノリガモ	C	1984・12 浦和
51	ウミアイサ	C	1985・11 川越
76	マナヅル	B	1984・3 浦和
78	ヒメクイナ	B	1981・10 浦和
81	ツルクイナ	B	1978・10 浦和
99	サルハマシギ	C	1979・8 浦和
101	コモンシギ	A	1978・9 浦和 1986・9 浦和
102	シベリアオオハシシギ	A	1982・5 大宮
113	ホウロクシギ	C	1985・9 大宮
120	セイタカシギ	C	1988・6 浦和 他

番号	種名	区分	主な記録
126	ミツエビカモメ	C	1985・1 大宮 1985・3 吉田
127	ハジロクロハラアジサシ	B	1979・9 本庄 1982・7 妻沼
129	セグロアジサシ	A	1986・9 所沢
149	ヤマショウビン	A	1986・9 吉田
153	ヤツガシラ	B	1984・3 東松山
164	イワミセキレイ	B	1986・1 所沢
186	オガワコマドリ	A	1979・1 浦和 1983・11 桶川
191	サバクヒタキ	A	1980・11 戸田
213	オジロビタキ	A	1986・2 川越
232	シマアオジ	B	1985・11 朝霞
237	ツメナガホオジロ	B	1985・4 浦和
254	コウライウグイス	A	1986・6 松戸
追加			
260	クロコシジロウミツバメ	B	1988・10 川越
261	コウノトリ	A	1987・12 本庄
262	クロツラヘラサギ	A	1987・12 ~ 88・3 本庄
263	アカハシハジロ	A	1988・10 ~ 11 妻沼
265	オオハシシギ	A	1987・11 ~ 88・4 大宮 1988・1 浦和
266	クロトウゾクカモメ	B	1987・6 川口
267	シロハトウゾクカモメ	B	1988・4 浦和
268	キガシラセキレイ	A	1987・4 浦和
269	クロジョウビタキ	A	1987・2~3 浦和 1988・1~3 浦和

# 鳥情報

**カンムリカイツブリ** ◇11月6日、本庄市の阪東大橋下流で2羽。毎秋、一時的に立寄るが今年はやや遅いようです(北川慎一)。  
**カワウ** ◇10月21日、浦和市の芝川、念仏橋上流で2羽(大武昭雄)。  
**ゴイサギ** ◇10月23日、幸手市上吉羽の中川で幼鳥1羽(秋間利夫)。◇11月6日、浦和市秋ヶ瀬B区の荒川で1羽(佐藤晶人)。  
**ダイサギ** ◇10月23日、幸手市上吉羽の中川で1羽(秋間利夫)。◇10月27日、浦和市の芝川、葎野新橋下流で1羽(大武昭雄)。  
**アオサギ** ◇10月21日、浦和市の芝川、念仏橋上流で3羽(大武昭雄)。◇10月23日、幸手市上吉羽の中川で2羽(秋間利夫)。  
**オシドリ** ◇9月23日、寄居町の玉淀湖上流でエクリプス羽の♂1羽(探鳥会2次会組)。10月26日、同所で25羽(小淵健二)。◇11月6日、本庄市の阪東大橋下流で♀1羽(北川慎一)。◇11月23日、森林公園のあざみくぼ沼♂5羽♀2羽(福井 亘他)。  
**アカハシハジロ** ◇10月29日、妻沼町の福川で♂1羽(11月11日付、読売新聞)。◇11月12日、森林公園の山田大沼で観察される(北川慎一)。  
**スズガモ** ◇11月6日、本庄市の阪東大橋下流で♀1羽(北川慎一)。  
**ミコアイサ** ◇11月23日、森林公園のあざみくぼ沼で♀1羽(福井 亘他)。  
**ノスリ** ◇10月22日午前10時、本庄市の阪東大橋下流上空で1羽。トビ、チョウゲンボウ、オオタカとめまぐるしく空中戦(町田好一郎)。◇11月6日、浦和市秋ヶ瀬B区で2羽(佐藤晶人)。  
**チョウゲンボウ** ◇11月3日、春日部市増田新田の自宅付近で1羽。北風にあおられつつ南へ(石川敏男)。◇11月6日、富士見市の柳瀬川左岸の田圃上空で♀1羽(藤原寛治)。◇11月6日、浦和市秋ヶ瀬Aサイド地区で1羽(佐藤晶人)。◇11月6日、富士見市南畑新田で1羽(佐藤晶人)。  
**コチドリ** ◇10月14日、幸手市上吉羽の中川

で21羽。10月23日、同所で13羽(秋間利夫)。  
**シロチドリ** ◇10月14日、幸手市上吉羽の中川で1羽(秋間利夫)。  
**ムナグロ** ◇11月2日、大宮市の西遊馬公園上空で7羽(近藤 崇)。◇11月3日、杉戸町大島新田の田圃で2羽(秋間利夫)。  
**タゲリ** ◇10月23日午前8時45分、春日部市増田新田で6羽。青空をバックに飛ぶ姿はすばらしかった。10月29日、同所で20羽。西から東へゆっくり移動する(石川敏男)。◇10月30日、桶川市川田谷で5羽(北川慎一)。◇11月2日、浦和市秋ヶ瀬の健保グラウンドで30羽(福井 亘)。◇11月6日浦和市秋ヶ瀬B区で50羽(佐藤晶人)。◇11月6日、富士見市の柳瀬川左岸の田圃で6羽(藤原寛治)。◇11月7日、浦和市の総持院付近で3羽(大武昭雄)。◇11月11日、戸田市道満で20羽(南稜高校生物部)。  
**ウズラシギ** ◇11月11日、戸田市道満で1羽(南稜高校生物部)。  
**ハマシギ** ◇10月14日、幸手市上吉羽の中川で3羽(秋間利夫)。  
**ユリカモメ** ◇10月22日、浦和市の芝川、念仏橋上空で1羽(大武昭雄)。  
**ツツドリ** ◇11月3日～5日、所沢市の菩提樹池で赤色型1羽(宮寺 充)。  
**カワセミ** ◇10月23日、幸手町上吉羽の中川で1羽(秋間利夫)。◇11月6日、浦和市秋ヶ瀬B区の荒川で2羽(佐藤晶人)。  
**ビンズイ** ◇11月7日、大宮市日進町の自宅付近で2羽(森本國夫)。  
**ヒヨドリ(渡り)** ◇10月10日、春日部市増田新田の自宅上空を約50羽の群れが南へ飛んで行く(石川敏男)。  
**ジョウビタキ** ◇10月23日、寄居町用土で♂2羽(小淵健二)。◇10月28日、幸手市の自宅付近で1羽(秋間利夫)。◇11月7日、浦和市三室で♂♀各1羽(大武百合子)。  
**クイタダキ** ◇11月2日、大宮市日進町で1羽(森本國夫)。◇11月23日、森林公園で1羽(藤原寛治)。  
**コサメビタキ** ◇10月29日、狭山市上赤坂で1羽(宮寺 充)。  
**ヤマガラ** ◇11月6日、三芳町の高福寺で2

羽（金子真理）。  
 メジロ ◇10月29日、浦和市大間木の自宅庭の柿の木に1羽（大武昭雄）。◇11月15日、浦和市中尾の自宅庭で2羽（草間和子）。  
 カシラダカ ◇10月23日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森で1羽（藤原寛治）。◇10月26日、寄居町の玉淀湖上流付近で1羽（小淵健二）。  
 アオジ ◇10月23日、大宮市日進町で3羽（森本國夫）。◇10月25日、浦和市の白幡沼で1羽。ジョウビタキと並んで水浴びをする（海老原美夫）。◇10月30日、森林公

園で1羽（藤原寛治）。◇11月6日、三芳町の多福寺で1羽（金子真理）。◇11月7日、浦和市芝原で2羽（大武昭雄）。  
 オオジュリン ◇10月28日、桶川市川田谷で約10羽（北川慎一）。  
 アトリ ◇11月11日、戸田市道満で♀1羽（南稜高校生物部）。  
 シメ ◇11月2日、川越市の入間大橋付近で1羽（近藤 崇）。  
 ニュウナイスズメ ◇10月23日午前9時、春日部市増田新田で♂1羽。刈田でスズメの群れと共に採餌する（石川敏男）。

## 【1月のみどころ】

新年おめでとうございます。今年はどんな鳥との出会いがあるでしょうか。ステキな鳥やステキな人との出会いを楽しみに、今年も元気にフィールドに出かけましょうか。

本格的な冬の訪れとともに、フィールドで会える鳥の種類も多くなってきます。アカハラやシロハラなどのツグミの仲間が街の公園や雑木林でも見られるようになります。どちらも薄暗い林の地表付近にすることが多いようです。アカハラは冬の三室の探鳥会の常連ですが、見られる場所はいつも決まっているようです。シロハラも薄暗い林の中で見られ、「ガサゴソ」と意外に大きな音をたてて落ち葉をひっくり返して餌を探している姿がよく見られます。アカハラは胸から脇にかけてのオレンジ色が鮮やかできれいな鳥です。シロハラは、目の周囲の金色のリングが目立ち、キリッとした顔だちのスマートな鳥で、以前私の憧れの鳥の一つでした。

日本特産種で高山で繁殖するカヤクグリという鳥がいます。この鳥は、冬は下の方にお



（カット 矢作亮太郎）

りてきますが、平地までおりてくることはないようです。特徴のないのが特徴といわれるぐらい地味なのですが、私の好きな鳥の一つです。長瀬町の宝登山では、駐車場の方から登った林の周辺部の明るい場所で見られます。「チリリン、チリリン」と鈴をふるように鳴いている姿を見ていると私の故郷の早池峰山のハイマツ帯が思いおこされ、なつかしい気持ちにさせてくれます。「フィッ、フィッ」と口笛がこだまするように聞えてきたらウソの群れを期待しましょう。他にも宝登山では、いろいろな鳥が楽しめます。そんなにきついのもないので、天気の良い日に一度出かけてみませんか。（藤原寛治）

表紙の写真

バードフォトコンテスト入選作

### アオジ（ホオジロ科）

冬になると草むらや茂みのなかからチッ、チッと、声はすれども姿は見えず。

その声の主がこのアオジです。背中はわりと地味な色をしていますがおなかのほうは、光がうまい具合にあたっていれば、きれいな

黄色に見えます。

一年中日本にいますが、埼玉の平野部では冬になると山からおりてきて、いたるところで見られるようになります。

（写真と文・登坂久雄＝戸田市）



野鳥や自然の好きな方、どなたでも歓迎。

探鳥会に参加される場合、持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。参加費は、一般＝100円、会員および中学生以下＝50円。受付は探鳥会当日です。特別な場合を除いて予約申込みの必要はありません。小雨決行です。

夢中になりすぎて、鳥を驚かしたり、植物を荒らしたりしないように。タバコの吸い殻やゴミを散らかすなんて事はもってのほか。いつもフィールドマナーをお忘れなく。

身支度ができたら、さあ出発！

### 熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：1月8日（日）

集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9：04発→大麻生9：12着／秩父鉄道寄居9：01発→大麻生9：19着

解散：午後1時ごろ

担当：諏訪隆久、鈴木忠雄、榎本秀和、林滋、岡安征也、町田好一郎

見どころ：冬晴れの河原でのんびり探鳥。松もとれ日常生活に戻ったところで、河川敷でも歩きましょう。

### 久喜市・昭和池探鳥会

期日：1月8日（日）

集合：午前9時10分 東北本線白岡駅北口  
または午前9時45分 昭和池駐車場  
(白岡駅の場合、その後バス利用)

交通：東北本線大宮8：40発→白岡8：53着

解散：午後1時ごろ

担当：石川敏男、浅田徳次、小林恒雄

見どころ：水面をおおうトモエガモの群れ。

昨年はやや少なかったけど、今年はどうかな？

### 長野県・軽井沢探鳥会

期日：1月14日（土）

集合：午前6時30分 大宮駅中央改札口前

交通：高崎線大宮6：42発普通電車に乗車、高崎で特急に乗り換え、軽井沢下車。途中駅からの乗車も可。大宮7：22発特急あさま1号利用も可。

費用：タクシーに分乗しますので、タクシー代若干をご負担願います。

解散：現地にて午後3時ごろ

担当：中島康夫、楠見邦博、草間和子、横山みどり

見どころ：あこがれの赤い鳥や～い。積雪、降雪が予想されますので、防寒と足ごしらえは厳重に。

### 浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：1月15日（日・祝）

集合：午前8時15分 北浦和駅東口 または  
午前9時 浦和市立郷土博物館前  
(北浦和駅の場合、その後バス利用)

解散：午後1時ごろ

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見邦博、福井恒人、渡辺周司、乗田実、手塚正義

見どころ：冬本番、三室は今がクライマックス。コタツにばかりもぐってないで、ちょっと野外へ出てみませんか。

### 嵐山町・武蔵嵐山探鳥会

期日：1月15日（日・祝）

集合：午前9時 東武東上線武蔵嵐山駅前

交通：東武東上線川越8：20発特急→東松山8：41→武蔵嵐山8：53着／東武東上線寄居8：24発、小川町駅で8：45発急行乗り継ぎ、武蔵嵐山8：53着

解散：午後1時ごろ

担当：諏訪隆久、林滋、町田好一郎

見どころ：胸ワクワク、初めての探鳥地。どんな場所かな、どんな鳥がいるのかな。



## ガン・カモ類一斉調査

期日：1月16日（月・振休）

日本野鳥の会では、毎年ガン・カモ類の全国一斉調査を実施しているところですが、当支部もこれに協力する形で調査を行ないます。下記2地点はより多くの会員のご協力をお願いしたい箇所です。

### ◇昭和池（久喜市）

集合：午前9時 昭和池駐車場

担当：松井昭吾

### ◇狭山湖（所沢市）

集合：午前9時 狭山湖堤防の上

交通：西武鉄道西武球場前駅から歩10分

担当：石井智

いずれの調査地点も解散は昼近くになる予定。雨天決行です。調査ですので参加費は要りません。いつもの支度でお気軽にどうぞ。

## 『しらこぼと』袋づめの会

とき：1月28日（土） 午後1時～3時ごろ

会場：支部事務局（浦和駅西口を出て左側、三菱信託銀行と日建ハウスの間を入れて進み、信号ひとつ渡ってY字路の右、茶色5階建マンションの1階＝徒歩約5分＝住所は12ページ下欄のとおり）

案内：先月から会場は事務局になりました。怖くありません。みんな来てね。

## 野鳥写真クラブ定例会

とき：1月28日（土） 午後3時ごろ～5時

会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ

案内：あの一瞬の感激をみんなに…。

## 上尾市・丸山公園探鳥会

期日：1月29日（日）

集合：午前7時20分 丸山公園北駐車場

交通：高崎線上尾駅西口1番バス乗場から上尾車庫行き7：03発→終点下車

解散：午前9時ごろ

担当：乗田実、赤瀬征雄

見どころ：冴え返る朝、胸に熱く出会いの予感。初めての早朝探鳥会。寒さも眠気も何のその、元気良く朝の散策です。

## 越谷市・古利根川探鳥会

期日：1月29日（日）

集合：午前9時30分 東武鉄道北越谷駅東口（その後現地までバス利用）

交通：東武伊勢崎線新越谷9：25発→北越谷9：30着／東武伊勢崎線春日部9：01発→北越谷9：18着

解散：午後1時ごろ

担当：山部直喜、石川敏男、木村義人

見どころ：ここ3年、ヨシガモやアメリカヒドリが飛来中…。土手の上から水鳥を観察。

## 寄居町・鉢形城跡と荒川探鳥会

期日：1月29日（日）

集合：午前9時 寄居駅南口

交通：秩父鉄道熊谷8：30発→寄居8：58着

解散：午後2時ごろ

担当：田村照治、新井清子、小淵健二、林滋  
見どころ：低山の冬の鳥。水辺ではヤマセミも期待できます。

## 吉見町・吉見百穴周辺探鳥会

期日：2月5日（日）

集合：午前9時30分 東武バス停百穴入口前

交通：東武東上線東松山駅東口8：58発、または高崎線鴻巣駅東口8：50発のバス。

解散：午後1時ごろ

担当：榎本秀和、乗田実、岡安征也、赤瀬征雄、吉原俊雄

見どころ：逆光に浮かぶカモの群れ。田圃ではタゲリも姿を見せてくれるはず。

## 蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：2月5日（日）

集合：午前8時45分 東北本線蓮田駅東口（その後現地までバス利用）

交通：東北本線大宮8：31→蓮田8：42着

解散：午後1時ごろ

担当：中島康夫、松井昭吾、浅田徳次、小林恒雄

見どころ：冬の光をはらんで、鳥たちの翼が躍ります。林を抜け、水辺をたどる、ちょっと楽しい探鳥コース。

# 行事報告

10月29日(土)～11月7日(月) 第43回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」バードウォッチング・フェスティバル

バードフォトコンテスト入選作30点を展示した「埼玉の野鳥いきいき写真展」は、会期の前から埼玉新聞に撮影者自身の言葉を添えて連載して評判を呼び、また、初日からテレビ・新聞などの取材があって大きく報道され、来場者も延べ1000名を越えた。

駅ビルの最も人通りの多いところにデンと展示した「庭に小鳥を呼ぼう・ミニサンクチュアリ展」、数百人が挑戦した野鳥クイズ、予想以上の売行きのバードショップ、来場者が多すぎて記念品が足りなくなり、スポンサーをあわてさせたバードウォッチング教室(講師:横山みどり幹事)、たくみなナイフさばきに皆が目を見張ったバードカービング教室(講師:山岸昭治会員)、いずれも大きな成果を上げた。

**会場ボランティア** 海老原教子、海老原美夫、岡安征也、小淵健二、金子真理、草間和子、楠見文子、黒田佳子、佐藤晶人、諏訪隆久、関口善孝、高橋夕香子、堂坂多美子、登坂久雄、乗田実、林滋、林待江、福井恒人、藤原寛治、町田好一郎、松井昭子、山部直喜、吉田二三子、横山みどり(24人)

共催の埼玉県、後援のアズ熊谷・アイリスメガネ・ニコンさん、大変お世話になりました。ボランティアの皆さん、お疲れでしょう。ご苦労様。



野鳥クイズ

10月30日(日) 蓮田市 黒浜沼

**人** 30人 **天気** 晴 **鳥** カイツブリ ダイサギ コサギ カルガモ コガモ スズガモ チョウゲンボウ キジ クイナ バン イカルチドリ ムナグロ タシギ シラコバト キジバト ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(34種) 北風が強く10月末としては寒い1日だった。出発前は、あまり鳥が出ないのではと心配したが、ジョウビタキ、シメ、アオジなどの冬鳥も見られ、田圃ではチョウゲンボウが天空高く舞い、黒浜沼にはクイナのほか、ここでは初記録と思われるスズガモが1羽現われた。終ってみれば、34種と多くの鳥を見られ、楽しい1日だった。

11月3日(祝) 川口市 差間

**人** 44人 **天気** 晴 **鳥** カワウ コサギ カルガモ コガモ オナガガモ ハヤブサ タシギ キジバト カワセミ ヒバリ ケセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(31種) あちらこちらから聞こえるモズの高鳴き。勢ぞろいした冬鳥たち。通船堀にしばらくぶりに戻ってきているカワセミも人数に驚いたようだが、それでもチラリと姿を見せた。運のいい人は通過して行くハヤブサを見られた。すばらしい天気恵まれ、のんびり歩いて晩秋の見沼田圃を満喫した。

11月6日(日) 吉見町 吉見百穴周辺

**人** 37人 **天気** 晴 **鳥** カイツブリ ダイサギ コサギ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロ ハジロ オオタカ ノスリ ハヤブサ バン キジバト カワセミ コゲラ ケセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタ

キ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (36種) 朝方ちょっと風があったが、日中は汗ばむほどの小春日和。そのせいか鳥たちもよく出てくれた。特に、終了間際にカワセミ・オオタカなどのスターが次々に飛び出したときはほとんどパニック(?)。そのほか、ジョウビタキ4羽による縄張り争いや鳥合わせ中のハヤブサなど、充実した探鳥会だった。

### 11月12日(土) 栃木県 奥日光

人 31人 天気 晴 鳥 マガモ コガモ ヒドリガモ ホシハジロ キンクロハジロ ミコアイサ トビ アカゲラ コゲラ セグロセキレイ ヒヨドリ カワガラス ミソサザイ ジョウビタキ ツグミ キクイタダキ エナガ コガラ ヒガラ シジュウカラ ゴジュウカラ キバシリ アトリ マヒワ ベニマシコ スズメ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (29種) 前日の雪で戦場ヶ原は一面の銀世界。開始直後ベニマシコ♂1羽をじっくり見ることができたが、以後ほとんど鳥の姿がなくなり、リーダーはやきもき。昼食後エナガの群れ、ゴジュウカラ、キバシリ、アカゲラなどが続々登場してくれて、やれやれ。おまけにミソサザイの木登りまで見られ、参加者全員十分に満足したようだ。

### 11月13日(日) 富士見市 柳瀬川

人 29人 天気 晴 鳥 チュウサギ コサギ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ タゲリ ユリカモメ キジバト ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ホオジロ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (26種) 穏やかな暖かい日。モズが縄張り争いで飛回っていた。お目当てのタゲリも10羽以上見られ、満足。アカハシハジロ騒ぎの最中のせいか、心持ち参加者が少ないようでもあった。(当日はアカハシハジロは見つけられなかったようです。)

### 11月13日(日) 熊谷市 大麻生

人 37人 天気 晴 鳥 カイツブリ ダイサギ コサギ アオサギ コガモ スズガモ ハイタカ コジュケイ キジ クサシギ イソシギ タシギ キジバト カワセミ アカゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モ

ズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (35種) こんな所にもカワセミがと思わせるようなゴルフ場の中を流れる水路で常連のカワセミ氏に挨拶をして探鳥会がスタート。こちらのカワセミは都市鳥?。一方明戸堰では野性?のカワセミ氏が、ホバリング、ダイビング、フィッシングをご披露。彼はフィッシングは上手でないようで、5回目のダイブでやっと魚がとれた。なんとスズガモが明戸堰に迷い込んでいたが、鉄砲からうまく逃げられたらどうか。

### 11月20日(日) 浦和市 三室地区

人 56人 天気 曇一時雨 鳥 カワウ ダイサギ コサギ カルガモ コガモ オナガガモ チョウゲンボウ タカブシギ イソシギ タシギ ユリカモメ キジバト カワセミ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ ツグミ ウグイス セッカ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (38種) 市立病院下の斜面林で早くもカワセミ、メジロ、シジュウカラ、ジョウビタキが出現。芝川では、ユリカモメの群れ。見沼田圃では、チョウゲンボウが杭に止り、その後上空をヒラリヒラリ。忠兵衛橋のところで久しぶりのヤマガラ。なぜかここにはヤマガラがよく現われる。林の中ではカケスが رفتったり来たり。

### 11月23日(祝) 桶川市 川田谷

人 38人 天気 晴 鳥 ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ ハイタカ コジュケイ キジ バン タゲリ クサシギ タシギ キジバト カワセミ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (36種) ポカポカの小春日和の中、お目当てのタゲリがフワリフワリ。目の前に突如現われスズメの群れに突っ込んだハイタカ。セキレイ類4種とホオジロ類3種も出て、おまけにカワセミ2羽。埋立てが進み、アシ原が焼かれていく川田谷の低湿地だが冬鳥は今年もやってきてくれた。



### 新しい事務所開設

新しい事務所を確保することができました。条件にあった場所をいろいろさがしていましたが、なんと、今までの事務局の隣の部屋（6畳2間の2DK、約40㎡）を借り受けることができたのです。大きく飛び立って、舞い降りたところが隣の部屋だったということですが、距離的には小さくとも、我等の埼玉県支部にとっては、たいへん大きな1歩を踏み出すことができました。

浦和駅西口から徒歩約5分の所に、事務局としての窓口は当面従来のままに、役員会、各分会、袋づめの会、会員のつどいなどに自由に使える場所がその隣りに確保できたという、まずは理想的な形です。

新事務所の整備、運営などと共に、新しい体制の裏づけの財源問題というたいへん重要な残された問題についても、役員会で更に検討を進めます。ご協力をお願いします。

### ご寄付をお願いします

新事務所に、ガステーブル、ストーブ、テレビ、冷蔵庫、扇風機、掃除機などがどこかで眠ってしまっていたら、ご寄付いただけませんかでしょうか。それと、新事務所関連ではありませんが、厚手の書類用の2穴パンチ、双眼鏡、望遠鏡、三脚などもご寄付いただければありがたいのですが。

事務局までご連絡ください。

### 電話番号が変わりました

12月19日から電話番号が下の通りに変わりました。よろしく。

### ありがとうございます

●次の方々からご寄付をいただきました。  
今井昌彦10,000円、海老原美夫・金子真理

福井恒人7,200円（11/13講師料）、関口事務機（株）複写機1台、パイオニア精密（株）2,300円（禁煙をやぶった罰金とか）、役員会3,545円（懇親会の残金）。

●次の方からは支部賛助会費（通常の会費との差額分8,000円）をいただきました。  
宮崎章次。（50音順、敬称略）

### 会員数は

12月20日現在 931人です。

### 活動報告

11月6日 吉川町吉川駅前団地住民の会で講演（山部直喜）。

11月13日 浦和市教育委員会主催ジュニアリーダー研修会で探鳥指導（海老原美夫・金子真理・福井恒人）。

11月19日 研究部会議。

11月20日 総務部会議。普及部会議。事業部会議。役員会議（司会：福井恒人、新事務所契約について、その他）。

11月21日 12月号校正（大武、西城戸）。

11月22日 野鳥保護のつどい運営委員会に海老原事務局長出席、委員に就任。

11月27日 役員会議（司会：森本國夫、新事務所の運営、その他）。



今月号の原稿がめずらしく早くあがったので、編集長に「どうだ、偉いだろう」と電話したところ「ところで、編集後記はしばらく書いてませんでしたよね」なんだなんだ、とんだヤブヘビになってしまった。

それにしても寒いですね。でも寒い中でいい鳥を見た後の一杯がまたいいんですよ～。

（藤原寛治）

『しらこぼと』1989年1月号（第56号）

定価 100円（会費に含まれます）

発行人 今井昌彦 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 ☎ 048(832)4062

〒336 埼玉県浦和市岸町4丁目26番8号プリムローズ岸町107号 郵便振替東京9-121130

印刷 望月印刷株式会社

（本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします）